

丹沢縦走 2005.12.3-4 山行記録

2 度目の丹沢。今回はヤビツ峠を出発し、丹沢主峰の縦走コースを選ぶ。標高 1,600m の山脈だが、一部森林限界を超え、天候がよければ遠方の山々を見渡せる。都心からも身近に感じられる山塊だからこそ、丹沢を何度も訪れる登山客は絶えないのだろう。

- 出発前々日は御茶ノ水、前日は新宿にて、さおりさんとザックを買いに歩く。ザックは長年のパートナーになるからこそ、妥協せずに選びたい。結局、私はイギリス製 Karrimor の「rigde40(黒)」を買った。よろしく相棒!!
- ほぼ視界のなかった塔ノ岳。しかし尊仏山荘での甘酒で温まり、しかも今夜この場所で丹沢を 1,500 回登頂した登山家を祝うために登ってきた、という登山客にも出会う。そんな登り方もあるのだと感心。(しかし、私はもっといろんな山に行きたいな。)
- 塔ノ岳を過ぎてからの稜線歩き。辺り一面の木々の枝に、凍りついた雪。山全体が白く、眩しく、どこか桜並木を歩いているような錯覚にも陥った。
- 丹沢山登頂(日本百名山!!) みやま山荘は改築されたばかり。次回はここに予約だ!!
- スピッツを歌ったら、突然晴れた。さわって～、変わって～♪
- 蛭ヶ岳。山頂からの夕焼け、星空、夜景、朝焼け。まさに山頂で天気が続いていたのは、晴男、晴女の実力か!? (しかし夜景はちょっと明るすぎ??)
- 蛭ヶ岳山荘の食事、あれは完全に手抜きだろう…。
- 小屋にて、「毎月 8 回は山へ行く」、「毎月 1 回なんて体が動かなくなっちゃう」、と話していたおばちゃん軍団に出会う。おばちゃん、恐るべし…。(いや、見習うべし…。)
- 野生の鹿を見る。目が合った鹿はきっとお父さん鹿。家族が食事の間に襲われないようにと見張っていたのか、私はかなり警戒されていたような気がした。これが自然の摂理!?
- ステファン。ドイツ人の登山家。英語で話しているさおりさん、すごーい。そしてステファンと急遽パーティーを組む。
- 下山道。雪だった…。だからこそ、辿り着いた温泉は、サイコー!!

そして、いざ温泉を出発しようとする、バスの時刻表に変更があると判明…。次のバスまで 1 時間は待たねばならないという、まさにその時!! **捨てる神あれば拾う神あり**。ある老夫婦に駅まで車に同乗させてもらえたのだ。その車内での会話が忘れられない…。

- ただ、「きれいだね」で山を終わらせるのではなく、美しい大自然の裏側には恐ろしさもあること、そのためには何を知っておくべきだろうか。(動物の習性とは??)
- 釣りにも釣り師としての掟がある。それを守れない人とけんかになることもあるのだ。
- ごみは持ち帰れ。誰もごみの山を見に来たのではないのだから。(街のごみの回収システムはすごいことなのかもしれない。そして、それに慣れきってしまった都会人…)
- 11 人の社員を雇っているのではなく、その社員の家族を含めた 40 人の生活を抱えているつもりだ。
- 人付き合い。それは自分に返ってくるもの。(これぞ、まさに商売人の言葉??)

山での出会い。(いや温泉での出会い) とても温かい時間だった。連絡先を聞かなかったことが無念。(確か車のナンバーは「湘南 34-21」(??)) また出会えますよね。

【おまけ】

毎月1回は山へ行く、という目標を無事に達成!! 久々に自分との約束を守れたような気がする。いつも自分を裏切ってばかりでした…、はい。でも、これはやっぱり、自分が山が好きだからこそ、とか、実は心の奥底で百名山は登れたらいいな、というおぼろげな目標を持っていたからこそ、続けられたのかな。来年もまたがんばって登ろう。(さおりさん、よろしく!!)

石川 暁 崇

